

郷州里山の会

みずき野第二調整池の北側に隣接する荒地を、地主さんから許可を貰ってボランティアで整備しています。会の名前にある通り、人と自然が共存する「里山」の環境づくりを目指しています。



現在、9人のメンバー(※)で月に2回(第一、三火曜の午前中)定期的集り、草刈りや枝打ちを行い、里山の自然を快適に楽しめるように整備しています。

ぜひ散歩のついでに、お気軽にお立ち寄りください。

※会員を随時募集中です。



この地は、以前は葦(ヨシ)が背の高さほど一面に生い茂る湿地でした。葦を刈り込んだだけで放置すると、今度は強力な繁殖力を持つ葛(くず)や外来種のセイタカアワダチソウが覆い尽くしてしまいます。

皆さんが「豊かな自然の景観」として思い浮かべるのは、適度に樹木が木陰や木の実を提供し、様々な下草が花を咲かせ、沢山の動物や昆虫が棲息する里山のイメージではないでしょうか？

このような環境にするためには、実は植林、間伐、下草刈りなど、常に人が手を加え維持するという並々ならぬ努力が必要です。日本では古来から自然を敬い自然の恵みを継続的に享受するための知恵として村人が力を合わせてこの「里山」の形成・維持にあたり、その結果、人々の生活に密着した環境として親しまれてきたのです。

しかし近世になって急速な近代化の波であちこちの里山が削られて宅地化されたり、ゴルフ場に変身したり、コンクリートで固められたり、里山の記憶も里山を維持するノウハウも忘れ去られようとしています。

我々は、その里山の理念を蘇らせ、みずき野にお住まいの皆さんがいつでも里山の自然に親しめるような環境づくりに挑戦しています。

里山エリアの植物

このあたりは今も水溜りのある湿地帯ですので、湿地を好む植物であるヤナギ類、葦が多く見られます。

ヤナギに関しては同定が難しいのですが、タチヤナギ、アカメヤナギ、カワヤナギの3種が見られます。

元々が葦の生い茂る荒地であったため、ヤナギ以外では樹木の種類は多くありません。イヌシデ、ヤマザクラ、イヌザクラ、イボタノキ、ウツギ、ニセアカシア、ノイバラが主で、エリアの北側の小高い林に多く見られるコナラ、シイ、ハンノキなどは全く見られません。

<自生の樹木>

ヤマザクラ、イヌザクラ、イヌシデ、ウツギ、イボタノキ、ネズミモチ、アカメヤナギ、タチヤナギ、カワヤナギ、ニワトコ、シュロ、ヌルデ、クリ、コブシ、エノキ、ケヤキ、イロハモミジ、ニセアカシア、クヌギ、ムクノキ、ノイバラ、ムラサキシキブ、ナンテン、スイカズラ、クワ、ヒイラギ

<植栽の樹木>

ヤマハギ、ヤマブキ、コムラサキシキブ、カキノキ、キンモクセイ、ユキヤナギ

<自生の草本>

ミソハギ、ノカンゾウ、ヒガンバナ、ミズヒキ、ネジバナ、ススキ、クズ、ドクダミ、セイタカアワダチソウ、スギナ、ヤブガラシ、カナムグラ、エノコログサ、ヒメジョオン、オニノゲシ、ハハコグサ、ムラサキカタバミ、アカツメクサ、イノコヅチ、セイヨウタンポポ、カントウタンポポ、ツユクサ、ブタクサ、ヘビイチゴ、ハルシャギク、スイカズラ、ヘラオオバコ、カラスウリ、ヨシ、ウラジロチチコグサ、キンミズヒキ、ヤブラン、そのほか未同定の種多数。

<植栽の草本>

ヒトツバ、キショウブ、キスゲ、ニホンズイセン、ホトトギス、チゴユリ、ヤマジノホトトギス、クリンソウ、ツルボ、オキナグサ、オミナエシ、フキ、シャガ、シュンラン、オカトラノオ、ホタルブクロ、マツモトセンノウ、ニホンサクラソウ、アジサイ、ヒマワリ、コスモス、ガマ、シラン、マコモ

エリア内では、散歩しながらそこにある植物を観察し、その名前を知って頂けるよう、50種あまりの植物に科名・種名(和名)を記した木製



の種名表示札を設置しました。余談ですが、なぜか、地面に立てた表示札の端をかじる動物がいるようです。野うさぎでしょうか？

ビオトープを目指して

トンボやメダカなどが生育できる人工的な池も作っています。水源がなく、夏場は蒸発して干上がってしまうことから、エリア内に井戸を掘ってポンプで吸い上げた水を引き入れるようにしました。メダカ、ザリガニが一年中生育しており、これを狙って、カワセミが食事に来ることもあります。ささやかですが、新しい生態系のサイクルが出来つつあります。こういった水生昆虫・生物を加えた生態系サイクルを観察する人工池はビオトープと呼ばれます。今後も、より多くの水生昆虫・生物が育つ環境に改善していこうと計画しています。

四季の見どころ

< 春 >

まずは、春を告げるタンポポ※の花や土筆(つくし;スギナの穂)が顔を出します。暖かくなってくると、ヤマザクラやコブシが可憐な花をつけます。その後、イヌザクラ、イボタノキ、ウツギなどの樹木が次々に白い花を咲かせます。初夏にかけて新緑の美しい季節でもあります。

※カントウタンポポも見られます。詳しくは、みずき野ホームページ内の本吉総男氏連載コラム参照



< 夏 >

キスゲやノカンゾウが黄色の花をつけます。池の周りのミソハギは一斉に赤紫の花をつけます。可愛らしいネジバナも所々で見つけることができます。

暑い日中も木陰に入れば、少し涼むことができます。アカメヤナギの幹には、カブトムシやクワガタが蜜を求めて集って来ます。



< 秋 >

彼岸のころ、その名もずばり、ヒガンバナの群落が咲き誇り、ヤマハギが赤紫色の花を咲かせ、それに黄色の蝶が群がります。お月見のころには、ススキの穂が出始めて風情を演出します。

下草に眼を凝らすと真っ赤で粒状の花を連なってつけるミズヒキが見られます。

イロハモミジが紅葉し、ムラサキシキブが紫の実をつけ、クヌギの木の下には沢山の球形のどんぐりが落ちています。また、カキ、ク



りの実が秋の味覚を楽しませてくれます。

< 冬 >

殆どの植物は葉を落したり枯れて、すこし寂しくなります。風のない晴れた日は木の根元まで日の光が届き、案外暖かいものです。木々の冬芽に春を待つ生命力を感じます。